

檜山地区 教育研究大会（今金大会）

- 1 目的 先行きが不透明な中においても、教育のさらなる充実、発展と新たな課題の解明に向け、各学校で積み上げた実践を交流し、互いに磨き合うとともに、新学習指導要領の実施に係る的確な対応等、学校教育を取り巻く今日的な諸課題にも積極的に目を向け、校長としての職能向上を図る。
- 2 主催 檜山校長会
- 3 後援 北海道教育庁檜山教育局・今金町・檜山管内教育委員会連絡協議会
檜山管内各町教育委員会
- 4 期日 令和3年10月1日（金）
- 5 会場 講話（オンライン）：江差町立江差小学校 分科会・部会等（書面）：各校
- 6 参加者 檜山校長会 会員（30名）
- 7 日程 10時 開会挨拶（檜山校長会長 角田昌宏）
10時15分 講話（檜山教育局長 近藤史郎様）
11時5分 閉会挨拶（檜山校長会副会長 福井順一）

8 学校経営上の課題別分科会

3つの学校経営上の課題別提言を書面発表し、紙面で感想交流した。

【第1分科会「学校経営」】

『働き方改革推進に向けた学校経営と校長の在り方』

提言者：乙部町立栄浜小学校長 安田善紀

- 働き方改革を推進するため、乙部町教育委員会は「時間外勤務時間縮減等に関する3年間の年次目標設定」や「7つの取組視点」といった明確な取組方針を提示。それを受け、各校において「学校評価・人事面談の位置づけ」「教育課程の再編成」「ICT活用による業務軽減」「制度の積極的活用」の視点で推進を図る取組や成果・課題の提言であった。

感想交流では、町教委のリーダーシップのもと町内4校が高い意識を持って取り組み、時間外勤務時間の縮減が実現されていることから、乙部町校長会の取組に高い評価の声が寄せられた。また、職員による温度差の違いや、危機管理の質・教育の質を落とさない働き方改革の進め方等の課題について、多くの学校から共感の意見が寄せられた。

新しい時代の学校を創造するための働き方改革として、最上位目標の実現に向けて、教育課程をどのようにデザイン（ブラッシュアップ）するか、そして、「教師の学び」そのものを変革していくという視点の重要性について認識を深めた。

【第2分科会「教育課程」】

『確かな学力の向上を目指す教育課程編成と校長の在り方』

- ～ICTを活かした授業改善・実態や特色を活かしたカリキュラム・マネジメント～
提言者：江差町立江差北中学校長 皆川一海

- 確かな学力向上のため、新学習指導要領を浸透させ、整備されたICT環境を活用した授業改善や、カリキュラム・マネジメントの充実による特色ある教育課程編成を図る取組と成果・課題の提言であった。

感想交流では、ICT活用において、生活科での「アサガオの観察」の写真記録化や中学校での遠隔を活用した職場体験や海外移住者との交流などの実践への関心が寄せられた。取組の姿勢として、まずはやってみて、課題を浮き彫りにし、具体的改善につなげていくことを浸透させる校長のリーダーシップに多くの共感の声が寄せられた。また、カリキュラム・マネジメントの充実を、ICT活用と一体的に進める経営の在り方が高く評価された。一方、教員人事異動を考えると、使用ソフ

トについて管内レベルで対応する必要性についての意見も寄せられた。

今回のカリキュラム・マネジメントでは、総合的な学習の時間を主とした提言であったが、各教科等の授業改善の可能性を広げるものであるとともに、働き方改革にも繋がる実践である。校長が時代の潮流を受け止め、「一歩前に踏み出す勇気とやり抜く意思」を持って経営に当たる重要性について認識を深めた。

【第3分科会「生徒指導」】

『学校の教育活動全体を通じて機能を発揮させる生徒指導と校長の在り方』

提言者：せたな町立瀬棚小学校長 米谷 優

- 児童生徒の望ましい人間関係や自己指導能力を育てるために、学校運営を生徒指導の観点から見直し、校長がリーダーシップを発揮して全体を調整するとともに、生徒指導の目標を定め学校運営の方向性を示すことにより全教職員の一致協力した体制の確立を図る具体的な取組と成果・課題の提言であった。

感想交流では、「トラブルを学びに変える」「不登校は問題行動ではない」といった生徒指導に対する構えや、自己肯定感や自己有用感を育むために特別支援教育の視点を持ち、校長が「決める」「示す」ことで、教員の「主体性」と「同僚性」を土台とした「協働性」の向上を図り、学校の教育活動全体を通じて生徒指導の機能を発揮させる校長の在り方に高い評価の声が寄せられた。また、町独自に配置しているスクールアドバイザーとの連携も高く評価された。

魅力ある学校づくりのために、「教職員の個の気付き」「チームの対話」「地域との協働」を通じて、日々の教育課程の中で全ての子どもが自分の良さや可能性を感じることができる機会を創出するなど、積極的な学習指導・生徒指導が行える体制づくりの重要性について認識を深めた。

9 学校別部会

(1) 小学校部会(書面交流)

- ① 特別支援教育の充実に向けた各校の実践と今日的課題

「令和3年度檜山管内教育推進の重点」を踏まえ、「専門性向上に向けた研修会への参加」「研修内容を踏まえた教育的支援の充実」「特別な教育的支援が必要な幼児児童生徒について確実な引継ぎの実施と継続した支援の徹底」を柱として、各校の取組を書面交流した。

校長自らが特別支援教育に対する理解を深め、知識を増やし、実践すべく、特別支援教育を学校経営の重点に据えることの重要性について認識を深めた。

- ② 令和4年度 第74回全連小研究協議会島根大会 第9分科会「学校安全」提言内容の進捗報告(報告のみ)

(2) 中学校部会(書面交流)

提言題「感染症対応や働き方改革推進における校長のリーダーシップの在り方」

提言者：奥尻町立奥尻中学校長 宮腰屋 由

昨年度末の奥尻島内での新型コロナウイルス感染拡大の事実経過及び校長としての対応の振り返り、並びに、自校の時間外在校等時間からの現状分析及び校長としての働き方改革推進の具体例が提言された。

感染症対応では、差別・偏見を生まない適切な発信や指導、迅速・的確・臨機応変な判断と対応、その際の町教委や保健所等関係機関との綿密な連携の重要性について認識を深めた。

働き方改革では、多様化している職員の思考・意識に対し、どこに合意点を見つけ協働できるか。また、行事等の実施では、コロナ禍における臨時的措置とするか継続するかを、保護者の意向も含めてどう精査できるかを課題として共有した。